

魅力ある国東市をつくる 新たなステージへ

国東市長 松井 督治

あけましておめでとうございませう。

市民の皆さまには、健康やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素から市政全般にわたり、ご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、能登半島地震をはじめ、台風や大雨などによる大規模な自然災害が全国各地で次々と発生した一年であり、国東市でも、台風第10号による大雨により複数の河川が氾濫するなど、市内全域で非常に大きな被害が発生いたしました。

本年も引き続き、災害からの復旧・復興に全力で取り組んでまいるとともに、いつ、どこで起きてもおかしくない自然災害に対して、市民の皆さまの生命と財産を守るために、防災・減災

対策に万全を期してまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

さて、本年は、人口減少に歯止めをかけるため、より一層人口減少対策、少子化対策に力を入れて取り組むとともに、国東市を多くの人々が訪れ、住んで楽しい、ワクワク感あふれるまちづくりを進めてまいります。

その一環として、豊後高田市と連携し、国東半島芸術文化祭2025を開催いたします。現代アート作品をはじめ、地域に根づいている芸術や六郷満山文化など、国東半島の芸術・文化・歴史の魅力を最大限に生かし、芸術文化と観光の振興を図ってまいります。

また、人口減少・少子高齢化の進行や社会構造の変化などにより、地域や市民

の皆さまが抱える課題は多様で複雑化・複合化してきておりますので、新たな地域の支え合いの仕組みとして地域運営組織の構築や重層的支援体制の整備に取り組み、地域の暮らしを守り、いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けられるまちを目指してまいります。

大分空港の宇宙港化に關しましては、本年は、大分空港の活用を検討しているシエラ・スペース社の宇宙往還機ドリームチェイサー初号機が米国から打ち上げられる予定であり、今後の進展が期待されます。宇宙港化を地域活性化や魅力あるまちづくりに繋げられるように取り組みを進めてまいりたいと考えております。

これまで築き上げてきたものを次世代に繋ぐとともに、新たな国東市の価値を

は、衆議院選挙の結果、自民党を中心とする与党が、過半数を割り込むなか、立憲民主党や国民民主党が躍進するなど、国会における勢力図が大きく塗り替えられ、103万円の壁についての議論が巻き起こるなど、これまでにない大きな変化を感じました。

また、本市の注目施設である鶴川商店街周辺観光・交流拠点施設「きとわ」の指定管理者が、昨年1月に指定され、本格的に施設の運営が開始されました。交流人口の増加を目的としたこの拠点施設が、多様なバックグラウンドを持つ人々や異なる考え方を持つ人々との交流の場となり、仕事やプライベートにおいても地域の拠点となることを期待しているところです。

本市議会は、市民の皆さまの意見やニーズを直接聞き、市民生活に密着した課題や、課題の解決に向けた意見を共有するため、コロナ禍で中断していた市民との意見交換会を再開いたしました。そのなかで、「消防団活動における要望事項」や「これからの子育て支援施策」、「担い手不足・働き手不足をどう解消していくのか」といったテーマで意見交換を行い市政における課題について、市民の皆さまより率直なご意見を伺うことができました。これら

の声を真摯に受け止め、議会として政策提言に繋がるよう議論を深めてまいりたいと考えているところです。今後も、市民の目線に立ち、開かれた議会となるよう注力するとともに、市長と緊密に連携し、それぞれ役割を生かし、実りある

創造し、将来を担う若い世代が未来に希望が持てるまちとなるよう各種事業を積極的に展開してまいりますので、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆さまにとって本年が素晴らしい年となりますよう、心から祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。

議論を重ね、市民の皆さまの意見や提案を市政へ反映できるよう、議会として皆さまの信頼に応えるべく全力で取り組んでまいりたいと考えております。

本年も、市議会への変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆さまにとりまして、希望に満ち健康で実り多き一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

令和7年

迎春

大不動岩屋（国見町）

市民の声を届けます

国東市議会議長 元永 安行

あけましておめでとうございませう。市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より市議会運営に深いご理解と温かいご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、1月1日の能登半島地震に始まり、8月末に発生した台風第10号により、国東市においても甚大な被害が発生するなど自然災害の脅威をまざまざと感じた1年でした。台風第10号の被害では、幸いにも人的な被害はありませんでしたが、国東市誕生以来、最大規模の被害となりました。一刻も早い復旧に向け、本市議会といたしましても取り組む所存です。国政において

は、衆議院選挙の結果、自民党を中心とする与党が、過半数を割り込むなか、立憲民主党や国民民主党が躍進するなど、国会における勢力図が大きく塗り替えられ、103万円の壁についての議論が巻き起こるなど、これまでにない大きな変化を感じました。

また、本市の注目施設である鶴川商店街周辺観光・交流拠点施設「きとわ」の指定管理者が、昨年1月に指定され、本格的に施設の運営が開始されました。交流人口の増加を目的としたこの拠点施設が、多様なバックグラウンドを持つ人々や異なる考え方を持つ人々との交流の場となり、仕事やプライベートにおいても地域の拠点となることを期待しているところです。

本市議会は、市民の皆さまの意見やニーズを直接聞き、市民生活に密着した課題や、課題の解決に向けた意見を共有するため、コロナ禍で中断していた市民との意見交換会を再開いたしました。そのなかで、「消防団活動における要望事項」や「これからの子育て支援施策」、「担い手不足・働き手不足をどう解消していくのか」といったテーマで意見交換を行い市政における課題について、市民の皆さまより率直なご意見を伺うことができました。これら

の声を真摯に受け止め、議会として政策提言に繋がるよう議論を深めてまいりたいと考えているところです。今後も、市民の目線に立ち、開かれた議会となるよう注力するとともに、市長と緊密に連携し、それぞれ役割を生かし、実りある